

ひと・まち・ときをつなぐ

# 絆をつむぐふるさと

## 将来に描くまちの姿

人と人、人から地域、まちへと広がる“つながり”から生まれる“絆”をつむぐことで、私たちのまちにぬくもりや心地よさが醸成され、まちへの湧き上がる愛着と誇りが生み出されます。

そして、その心は、“くさつ愛”へと変わり、まちづくりの原動力となるとともに、ときを重ねても、私たちのまちは、誰からも愛される“ふるさと”となります。

また、人と人、人から地域、まちへと“つながり”が広がることで、まちの資源や魅力が一層輝き、活力に満ちた大きなエネルギーが生み出されます。

そして、その大きな力は、さまざまな課題に果敢に挑戦する知恵や勇気へと変わるとともに、未来を切り拓いていくための力となり、ときを重ねても、私たちのまちは、いつまでも活気にあふれ、住む人、訪れる人、誰もが“健幸”になれるまちとなります。

令和3(2021)年度から  
令和14(2032)年度までの12年間  
将来ビジョン、まちづくりの基本目標などを示しています。

### 1期4年の3期計画

各分野の基本方針、施策などを示しています。

基本構想

基本計画

第1期 令和3(2021)～令和6(2024)年度  
第2期 令和7(2025)～令和10(2028)年度  
第3期 令和11(2029)～令和14(2032)年度

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成されています



令和3年4月1日から  
第6次草津市総合計画がスタートします

問 企画調整課(7階) ☎561-2320、FAX561-2489 2～6ページ

# 健幸創造都市 草津

我が国では、人口減少と少子高齢化の進行や、自然災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、行政のデジタル化など、社会全体として、急速に変化する社会情勢への対応が求められています。

本市においても、今後、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、社会保障費の増大や税収の減少、コミュニティの希薄化など、課題がますます多様化・複雑化していきます。

こうした状況を踏まえ、持続可能な社会の実現に向けて、これからの12年間のまちづくりの指針となる第6次草津市総合計画を策定しました。

本計画では、将来ビジョンとして、「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと健幸創造都市 草津」を掲げ、「絆」には、人や地域の絆を大切にしていきたいという願いを、「創造」には、誰もが生きがいをもち、健やかに幸せに暮らせるまちを、共に創り上げていく、まちづくりに挑戦していくという思いを込めています。

将来にわたり、明るい草津の未来を共に創ってまいります。



草津市長 橋川 渉

市では、令和14年度を目標年次とする、第6次草津市総合計画を策定しました。総合計画は、市が将来に向けてめざすまちづくりの方向や、それを実現するための施策などを定める、市の最上位計画です。



第6次草津市総合計画の本編はこちら

本市の人口は、令和12(2030)年に最大となり、基本構想の期末である令和14(2032)年に向けて、緩やかに減少すると推計しています。これらを踏まえ、本市では、基本構想の人口フレームを次のとおりとしています。※「人口フレーム」とは、計画的なまちづくりを進めるために、将来の人口規模を想定した枠組みのことです

人口フレーム 147,000人





# リーディング・プロジェクト (重点方針)

令和3(2021)年度  
↳  
令和6(2024)年度

市のまちづくりを先導・けん引する4つのリーディング・プロジェクトを重点方針として位置づけ、分野横断的な施策展開を図っていきます。

## 未来を担う子ども育成プロジェクト

地域で子どもを守り育てるまちづくりの推進、子育て支援の充実や本市の強みを生かした教育など、子どもの豊かな育ちと学びを確かなものとしながら、生涯にわたって必要な生きる力の基礎を培い、心豊かでたくましく生きる子どもを育成します。

## 地域の支え合い推進プロジェクト

地域住民が地域課題を「我が事」と捉え、人與人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながるなど、お互いを大切に、支え合い、絆をつむぎながら、誰もがいつまでも元気に活躍できるまちをつくりまします。

## にぎわい・再生プロジェクト

まちなかでは、にぎわいと魅力にあふれるまちづくりを、郊外部では、地域の産業や資源などを生かした取り組みを推進するなど、地域らしさを大切にしたいまちづくりを進めます。また、まち全体に公共交通ネットワークを形成するなど、市内外から人が集い、行き交い、将来にわたり、利便性が高く快適に暮らし続けられるまちをつくりまします。

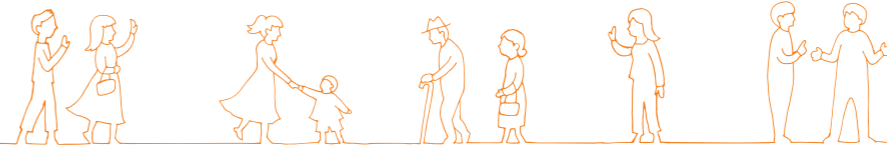
## 暮らしの安全・安心向上プロジェクト

「強さ」と「しなやかさ」を備えた災害などに強いまちづくりを進めるとともに、自らの地域は自らで守るという意識の醸成や、誰もが安全で快適に生活できる環境整備を図るなど、市民・行政・関係団体などが一体となった取り組みを進めることで、暮らしの安全と安心を守ります。

リーディング・プロジェクトに基づく令和3年度の施策については7～11ページをご覧ください。

# まちづくりの基本目標

将来ビジョンの実現に向けて、5つの「まちづくりの基本目標」を掲げるとともに、「協働」と「SDGs」の視点を踏まえたまちづくりを進めます。



### きょうどう 協働

協働とは、共通の目的を実現するために、多様な主体が責任や役割を分担し、互いの特性や能力を持ち寄って連携・協力することで、単独で取り組むよりも大きな成果が期待される取り組みです。行政と市民などの役割を明確にし、連携・協力しながら住みよいまちをめざします。

### エスディーゼーズ SDGs

SDGsとは、先進国を含む国際社会全体の17の目標と169のターゲットで構成される「誰一人取り残さない」を理念とした共通目標であり、市の総合計画の取り組みと、めざすべき方向性は同じです。SDGsという世界共通のものさしを用い、持続可能なまちの実現をめざします。

### ②「笑顔」輝くまち

多様なコミュニティ活動の促進を図るとともに、行政と地域がともに地域課題の解決に取り組むまちにします。幼少期から高齢期まで、国籍、文化や習慣などにかかわらず、障害のある人もない人も、多様性を認め合い、誰もが健やかに自分らしく暮らせるまちづくりを進めます。

### ①「こころ」育むまち

つながりの輪を広げ、絆を深め、やさしさと思いやりの心を育むことにより、誰もがお互いを尊重し合うまちにします。本市の歴史・文化を次世代へ守り伝えながら、誰もが学びを深め、生涯にわたり楽しく生きがいを感じられるまちづくりを進めます。

### ④「魅力」あふれるまち

農業や商業、観光などの振興を図るとともに、地域経済の活性化を図り、活力に満ちたまちにします。地域の特性や資源を生かしたまちづくりやガーデンシティの推進など、活気に満ちたまちづくりを進めます。

### ③「暮らし」支えるまち

災害や犯罪に強い安全・安心なまちにします。琵琶湖をはじめとした自然環境の保全や都市の基盤整備、公共交通の充実など、快適に住みよいまちづくりを進めます。

### ⑤「未来」への責任

組織力の向上や行政事務の効率化などにより、市民サービスのさらなる充実を図るとともに、健全で持続可能な市政運営を進めます。

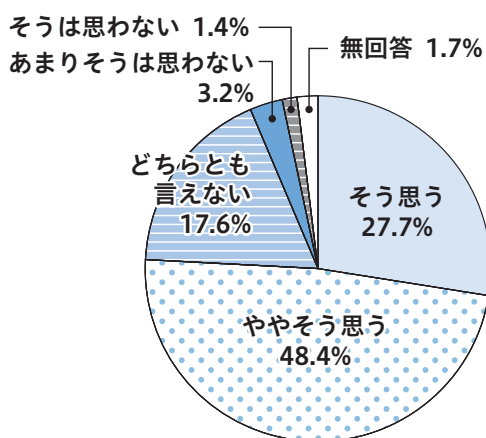
第6次草津市総合計画の策定にあたっては、市民意識調査をはじめ、高校生アンケート調査や転入者アンケート調査などを実施し、市民の皆さんからまちづくりに対する思いや意見をいただきました。その中で、皆さんが将来に描くまちの姿などを、一部紹介します。



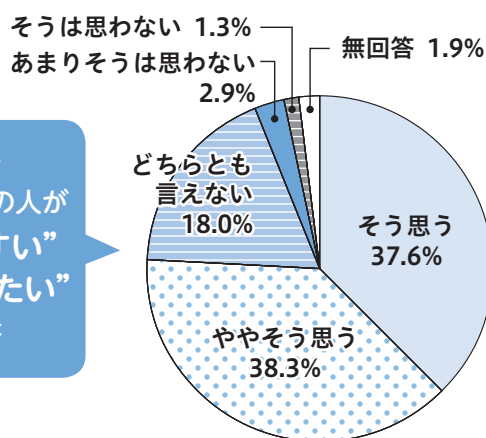
## 草津市は住みやすい？ 住み続けたい？

市内在住の18歳以上の中から、3,000人を無作為抽出し、平成30(2018)年度に実施した市民意識調査から(回答:959人)

### Q. 総合的に住みやすいまちである



### Q. これからも住み続けたいか



およそ  
4人に3人の人が  
“住みやすい”  
“住み続けたい”  
と回答



## 将来の望ましい都市像は？

市民意識調査では…

- 「健康で元気に暮らせるまち」
- 「安全で安心して暮らせるまち」
- 「子育てサポートが充実しているまち」

高校生アンケート調査では…

- 「すべての人にやさしいまち」
- 「趣味や娯楽、スポーツ活動が充実しているまち」
- 「教育環境が充実しているまち」



## 草津市への転入の決め手は？

転入者アンケートでは…

- 1位 通勤・通学時間
- 2位 住宅価格・家賃・広さ
- 3位 買い物など生活の利便性

